

第76回 中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会

ランチョンセミナー2

# 卵巣癌における バイオマーカー TFPI2の臨床的有用性

座長

京哲 先生

(島根大学医学部 産婦人科学講座 教授)

演者

川口 龍二 先生

(奈良県立医科大学 産婦人科学講座 准教授)

日時

2024年 9月23日(月・祝)  
12:20~13:20

会場

第1会場 (あわぎんホール 4F大会議室)

〒770-0835 徳島県徳島市藍場町2丁目14番地

整理券制ではございません。先着順で受付いたします。

共催：第76回中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会



東ソー株式会社

TOSOH

## 卵巣癌におけるバイオマーカーTFPI2の臨床的有用性

座長：京 哲 先生（島根大学医学部 産婦人科学講座 教授）

演者：川口 龍二 先生（奈良県立医科大学 産婦人科学講座 准教授）

組織因子経路インヒビター2 (Tissue Factor Pathway Inhibitor-2; TFPI-2) は卵巣明細胞癌の培養上清のプロテオーム解析から発見された卵巣癌の新規バイオマーカーであり、2021年4月に保険収載となった。TFPI2は高い明細胞判別性能を有しており、試薬添付文書には悪性腫瘍と良性腫瘍を鑑別するTFPI2のカットオフ値は191 pg/mL、明細胞癌と非明細胞癌を鑑別するカットオフ値として270 pg/mLと記載されている。

しかし、TFPI2が保険収載となった後のリアルワールドでのTFPI2のデータ蓄積はまだ少ない。われわれは、TFPI2が保険収載されてから2023年5月までの期間に卵巣腫瘍にて手術を行い、病理組織学的診断の確定した124例においてTFPI2の有用性について、CA125と比較して検討を行った。

その結果、良性腫瘍群と境界悪性腫瘍および悪性腫瘍を合わせた群との比較、良性腫瘍および境界悪性腫瘍を合わせた群と悪性腫瘍群との比較、明細胞癌群と非明細胞癌群との比較ではそれぞれCA125、TFPI2ともに有意差をもって鑑別可能であり、明細胞癌群と卵巣子宮内膜症性嚢胞群との比較ではCA125では有意差を認めないもののTFPI2では有意差をもって鑑別可能であった。また術後TFPI2の上昇が卵巣癌増悪を反映していた症例も経験した。これらの結果より実臨床においてもTFPI2は既存の腫瘍マーカー同様に有用であることが分かった。さらに、TFPI2が卵巣癌における予後予測マーカーになりうるかも検討を行い、術前のTFPI2が高値である症例の予後は有意に不良であった。

以上のように、TFPI2は明細胞癌、卵巣腫瘍の良悪性の鑑別する診断マーカーだけでなく、予後予測因子になるバイオマーカーとなりうることがリアルワールドのデータとして明らかとなった。